

卒業論文

男性の家事参加

—女性の中から見た積極的参加に着目して—

平成 16 年入学

社会学・地域福祉社会学

平成 20 年 1 月提出

要約

本論文では男性の家事参加という問題に対して見られる男女の意識差について論じている。

まず第1章では男性の家事参加問題を議論するにあたって大前提となる性別役割分業意識について、日本における性別役割分業の歴史、また性別役割分業の構図が徹底された1970年代の時代背景にふれている。

第2章では世論調査を取り上げ、男女における性別役割分業意識とその実態についてまとめた。男性も家事に積極的に参加すべきという意見が増加しているにもかかわらず、実際の家庭内においては性別役割分業がなされ、意識と実態がかけ離れているという言説が一般的なものとなっている。しかし、それは正確な実態をとらえているだろうか。「積極的参加」という文言に注目し、男性の主観においては積極的に家事に参加しており、実は意識と実態は一致しているのではないだろうか、そして「積極的参加」に対する評価には男女で差が見られるのではないだろうか、と問題提起を行っている。また、家事分担・家事参加の決定要因について論じている2つの先行研究も取り上げた。それらの研究の中で共通している規定要因、「時間」「家事能力」「規範」のうち「家事能力」「規範」の影響については大学生を対象とした場合でも「男性の家事参加に対する意識」において男女差が見られるのではないだろうかと予想した。

第3章では分析を行うために行った社会調査の概要等について説明している。質問項目の設定や全体の分析枠組み、分析の際に行った変数の操作、第2章の先行研究をもとに立てた「男性の家事参加に対する意識」に対する「家事能力」「規範」の与える影響についての仮説等を具体的に説明している。

第4章では大きな分析のうちの1つ、重回帰分析を用いた「男性の家事参加に対する意識」についての考察を行っている。男性においても女性においても家事能力の高い者は、「男性の家事参加に対する意識」も高くなる可能性があることがわかり、家事能力において男女差は、はっきりとは見られなかった。規範については男女差が見られた。幼少期の家事手伝いは女性の場合、性別役割分業意識の再生産を生じさせ「男性の家事参加に対する意識」を低くし、男性の場合は性別役割分業意識の形成を抑制させ、家事参加意識を高める効果を持つことがわかった。また父親の家事参加頻度が高ければ男女双方において「男性の家事参加に対する意識」も高くなるということがわかった。

第5章ではもう一つの大きな分析、「積極的参加」に対する評価の男女差についての考察を行っている。大学生におけるその評価は男女において大きな差はみられなかった。しかし男性においても女性においても、とりあえずは家事を半々で行うことが望ましいと考えるような傾向が見てとれたので、実際の夫婦の場合であればその評価に差が見られるであろうと考えた。そこで、実際の夫婦を対象として追加調査を行った。その場合は男女において差が見られた。また、特定の家事で男女共通で存在しているだろう性差認識についてもふれた。

第6章では今回調査によって得られた知見と可能性についてあらためてまとめた。さらに筆者の思うこれからの家事参加問題、さらに今回言及しなかった育児参加問題についても少しふれたうえで本論を締めくくっている。

目次

はじめに	1
第 1 章 言葉の定義、日本における性別役割分業意識の歴史	2
第 2 章 これまでの性別役割分業に関する先行研究	4
1 節 世論調査にみる家事参加意識と実態	4
2 節 男性の家事参加・家事分業の規定要因	6
第 3 章 大学生における男性の家事参加意識に関する調査	12
1 節 調査概要	12
(1)家事項目の設定 (2)分析枠組み (3)分析上の変数について	
2 節 仮説	17
(1)仮説：家事能力について (2)仮説：家庭生活で形成される規範について	
第 4 章 「男性の家事参加に対する意識」への諸要因の影響力	20
1 節 重回帰分析結果	20
2 節 考察	21
(1)家事能力の与える影響 (2)家庭生活で形成される規範の与える影響	
第 5 章 「積極的参加」に対する評価	28
1 節 仮説：「積極的参加」に対する評価について	28
2 節 大学生における「積極的参加」に対する評価	29
3 節 補足調査概要・仮説	31
4 節 夫婦における「積極的参加」に対する評価	32
5 節 家事に対する性差認識	34

第6章 まとめ	37
1 節 調査結果まとめ	372
節 これからの家事参加・育児参加問題	38
おわりに	39
参考文献・参考資料・参考 URL	40
付録：調査票	